

多様な性について

路上アクションを行う

草の根人権活動団体

神戸 I D A H O

## 私たちの理念

- ★ミッション 毎年、多様性に YES! の日付近に路上アクションを行い続ける
- ★ビジョン 多様な性を切り口に、多様な生き方や違いがあることを認識し合う社会を作る
- ★バリュー 「反」「NO」などを使わず「YES」などのプラスのメッセージを発信する

詳しくは団体HPへ！ <https://kobeidaho.jimdofree.com/>

西宮市では多くの職員・先生方がLGBTQを含む人権に関する取り組みを行ってくださっています。西宮市人権・同和教育研究集会もその一つです。様々な立場の方が尽力されている中、今私達にできる事は私達の活動紹介より、様々な立場の方からの西宮市へのメッセージを届ける事だと思いました。一つでも心に届くメッセージがあれば幸いです。(神戸 I D A H O 代表 小林 和香)

## 西宮市の先生へのメッセージ

●生まれも育ちも甲子園、生粋の宮っ子で先天性の難病と発達障害、そして性分化疾患を持つ30代です。「卵巣や子宮が無い女性」として生まれ、からだの特徴が一般的な女性と違う私は、学校生活の様々な場面で混乱や孤独、焦燥感などを感じ、「私はこれからどうなるんだろう？」と自分に自信が持てず、1人で悩んでいました。難病も発達障害も性分化疾患も、どれも見た目からは分かりにくいものです。見えにくい生きづらさを抱えた人たちにとっても、住みやすい街 No.1 西宮となるように、私も皆さんとともにできる事を考え、行動していきたいと思います。(無記名)

●幼少から小学生時代、宮っ子として育ちました。保育園でも小学校でも、とても良い先生に恵まれました。私の家庭内に問題があった時、当時の先生は私の親の相談にのり、私の事を見守ってくれました。良いところを見つけてくれる先生も何人もいました。今になって、通常の仕事だけでも大変なのに、一人一人目をかけてくださっていた先生へのありがたみを深く感じます。私は、大学生になってからジェンダーやセクシュアリティについて学び、大切な自分のアイデンティティを知りました。その時、『なんでこんな大切な事を、もっと子どもの時に教えてくれなかったんだろう』と強く思いました。どうか私の後輩にあたる子ども達が、自分を大切に、周りの人を大切にできるよう、ジェンダーの事、セクシュアリティの事にもっと触れていってほしいなあと思います。そして、先生方自身も、自分を大切にできるよう、教育の場所に広く、行き渡ってほしいなあと思います。(中村 星海 27才 大阪府 シスジェンダー女性、セクシュアリティ不特定)

## 西宮市への応援メッセージ

●私には西宮市に住む同性の恋人がいます。西宮市は田舎暮らしの私にとって都会です。「できる」がたくさんある町だと思います。もし西宮市でパートナーシップ宣誓ができるのであれば喜んで西宮市に住みたいと思います。西宮市でも私のように思っている人がたくさんおられると思います。同性カップル、トランスジェンダーの方々はまだまだ苦しい生活をしています。自分らしく生きたいのに生きられない人達がこの社会にたくさんいます。大人だけではありません。これを読んでい

るあなたのお子さん、友達もそういった思いをしているかもしれません。理解しようとしなくていいです。受け入れてあげてください。そうするだけでも幸せだと思います。西宮市に住む人達が私達のような人を受け入れるだけで幸せが溢れます。どうか「できる」がまた1つ増え、幸せが溢れる西宮市になりますように。そして日本が幸せで溢れますように。(22才 京都府 Xジェンダー)

## 職場の困った／よかったエピソード

●私には幼稚園の頃から一つだけわからない感情がありました。それは『恋愛感情』です。性別問わず人を好きになってもいいという情報が周りになかったため「この感情は何だろう？」と悩んで生きてきました。私自身LGBTQの知識が全くなく、自分が当事者だと自覚した時、その事を受け入れる事がすごく困難でした。長い月日をかけ、自分自身を受け入れ認め、たくさんの仲間と出会い、今私は笑顔で生きる事ができています。職場ではカミングアウトするまでの数年間、スタッフやお客様から「結婚はまだか?」「彼氏は作らへんのか?なんでや?選り好みし過ぎと違うか?」「うちに嫁にきて欲しいわあ〜」など異性愛を前提とした言葉の数々を浴びてきました。皆さん悪気はなく私のことを想って言うてくださっていることは伝わっていたので、いつも笑顔でごまかしていました。でも、笑顔でごまかす度にみんなに嘘をついている罪悪感から、その笑顔を作る事が苦しい時もありました。そんな中、素敵なパートナーと出会い、パートナーがセクシュアリティをオープンにLGBTQ活動をしている人だったので、そんなパートナーを見て「私もオープンに生きてみよう!」と思えるようになりました。そこからは職場で恋愛の話になっても『カミングアウト』という堅い感じではなく、自然に自分のセクシュアリティを話しパートナーとの事も話すようになりました。初めは勇気がいりました。でも、スタッフの皆様からは「いい人おったんや〜安心した!」という言葉をもらいました。そして、私は今のパートナーと32歳の誕生日に私の住んでいる市でパートナーシップ制度を利用してパートナーシップ宣誓をし、家族になりました。パートナーシップ制度の事、パートナーとの事を職場に話したところ、スタッフの皆様がすごく祝福してくださり、他のスタッフが結婚した時と同様のお祝いをしていただけた事がとても嬉しかったです。

(河崎 桃子 32才 奈良県 レズビアン寄りのパンセクシュアル)

## 社会へのメッセージ

●「セクシャルマイノリティ」、LGBTs当事者はこう呼ばれる事があります。私も幼い頃から身体の性別に違和感を感じてきましたし、当てはめるのならその枠組みに入るのでしょう。実を言うとその現実には長年受け入れられず、枠にはめられ差別を受ける事への恐怖もあってか「自分はおかしい」と思うようになっていました。それでも大学時代、周囲から求められる性別像や自分を偽り続ける事に限界が来たようでひどく調子を崩し、ようやく性別の悩みに真剣に向き合えるようになったのです。そして、それまで恐怖や不安で目を背け気づけなかった書籍、相談できる場、勉強・交流会、ALLYといった理解者の存在にも気づく事ができ、とても救われました。私はそんな存在にとっても感謝しています。同時に、「もっと早く相談したり、救ってくれる存在に気づきたかった」とも思います。だからこそ私はより多くの人に、セクシュアリティで悩み苦しむ人たちの存在や現状を知ってほしいと思いますし、当事者が上記のような存在に気づける環境づくりをして欲しいと思います。マイノリティとも言われますが実は多くの人との身近にも声を出せず苦しむ人々が存在し得るとも言われ、想像されているよりも多くの人に関係のある話なのかもしれない。私はそう思っています。(Mitsuki 24才 埼玉県)

●現役中学生です。僕はXジェンダーで、何でも男と女で分かれなさいといけない事が毎日辛いです。最近行われた実力テストでも男女欄があり、カミングアウトもできていない上、どちらでもない僕はその欄を記入するだけでしんどくなります。また時間をたくさん使って不利になってしまいます。それぐらい我慢しなよ、そんなの気にしなかつたらいい、と思うかたもいらっしやるかもしれませんが。しかし、嘘をついてしんどくなる事、ありませんか？性別欄を書くときに、僕は嘘をついているような気持ちになります。なので、性別欄の撤廃を望みます！

(松村 里緒 14才 大阪府 Xジェンダー不定性)

●自分自身は、トランスジェンダーのF T Mだと自認して、家族や友達にカミングアウトできるようになったのは20歳になってからです。地元は、なかなか周囲の人や職場の人にはカミングアウトしづらい土地柄があります。実際近所の目が気になり、実家に帰らなくなった時期もありました。地方にも自分と同じように困っている子どもや仲間がいて、住みにくい場所であってはいけないと思い、自分の生き方を発信しロールモデルとなり、一人でも悩む方や子ども達が生きやすくなってほしいという想いがあります。生きにくかった、自分らしく生きられなかった学生時代でしたが、今は自分らしく輝いて、自分らしく今を、パートナーと共に生きています。色々な生き方や多様性が認められる社会になりますように。みんながありのまま自分らしく生きていいんだよ。みんな違ってみんないいよ。たった一人の自分を大切に。一度きりの人生自分らしく輝いて歩いていこう。仲間はいてるよ。ひとりじゃないよ。(定政 輝 30才 奈良県 トランスジェンダー/F T M)

## 『西宮と私』 内藤 れん

内藤れんと申します。1994年生まれで、西宮市のお隣、神戸市出身です。セクシュアリティやジェンダーを考える人なら誰でも参加でき、安心して話せる場を提供することを目的としている「れいんぼー神戸」を主催しています。セクシュアルマイノリティ当事者で、大阪を中心にいろんな団体に所属し、当事者や周辺の人のためのコミュニティスペースのスタッフをしています。また、研修や講演の活動もしていて、学生や教員、また行政の人等に向けて、基礎知識や自分の経験をお話しています。

西宮には縁があって、1年間だけですが専門学校に通っていた事があります。自己紹介でセクシュアリティを言うのが好きではないので、はじめに説明をしなかったのですが、私はトランスジェンダーです。生まれた時は女性で、現在は男性として生活をしています。そんな私が女性的な名前を捨て、新しい名前で初めて男性として社会生活を送ったのは、西宮の専門学校でした。

専門学校に入学する時、先生と話し合いをし、「男の子に見えるから、男の子として通っていいよ」と言ってもらいました。それは私にとってはとても嬉しく誇らしく思う出来事でしたが、あとになって考えると複雑な気持ちになりました。主にトランスジェンダーの人が望みの性別で通る度合いのことを「パス度」と言います。覚える必要はないですが、この先を語るにあたり今だけ覚えていただければと思います。私が複雑な気持ちになった理由は、私が「パス度」が高いから、戸籍の性とは違う性で学校に通えるだけで、仮に「パス度」が低い人が同じような事をお願いした時に受け入れられないのではないかと思ったからです。

私は全ての人のセクシュアリティが認められ生活できる社会をめざして活動しています。今はその時よりずっとセクシュアルマイノリティへの理解が進み、「LGBT」という言葉の認知も広まりました。きっと今は当時とは状況も違っているし、そうであればいいなと思っています。

## 『学校で取り組み続けて』 小学校養護教諭 吉岡 有可

10年前自分の性自認に揺らぎを感じ悩んでいた児童との出会いから、当事者の生きづらさが社会や周りの環境の無理解からくるものだと気付かされました。当時は、参考にするものがなく、NPO法人QWR Cに相談へ行きました。そこで出会った塩安九十九さん（昨年度西同教座談会スピーカー）に相談し、小中合同校内研修にも講師として来て頂きました。当時は藁をもすがる思いで、教員研修に来られていた宝塚大学看護学部日高康晴教授に教えてもらった横浜市のNPO法人SHIPからDVD教材を取り寄せたり、冊子を送ってもらったりと資料や教材がとても少なく苦労した事を覚えています。

その後、塩安さんと大阪市小学教員を中心にDVD『いろんな性別』が、2011年に作成され、一緒に関わらせて頂いたのがご縁で、今も一緒に教材作りをさせて頂いています。（QRコードから現在作っている動画が見られますので、ぜひアクセスしてみてください。内容は『性別思い込みあるある』という4分ほどの動画で、朝の会など短い時間でも活用できる教材になっています。）

この10年間、4年生の保健学習でDVD「いろんな性別」を用いた授業を続けてきました。また、5年前からは6年生対象に出前授業として「にじいろ i-ru」さんに授業をしてもらっています。続けてきた事で、学習の機会は教員研修にもなりますし、児童とLGBTQとの出会いを繋ぐ事ができていると感じています。今はいないと思っても、実は見えていないだけで、卒業後カミングアウトされたり、相談に来られる子どもや保護者もいます。教職員の意識も変わってきています。私自身、知らない事に出会い、考え学び続ける事で、自分の意識が変化し、生きづらさから解放されています。誰もが自分のままでいいと、生きやすい社会の実現のためにこれからも取り組みを続けたいと思います。<https://lgbtsougi.wixsite.com/newcteam/aruaru>（上のQRコードをご利用ください）



こんにちは、飯塚モスコです。僕は普段、ゲイの日常を切り取って、4コマ漫画を描いています。もちろんゲイといってもひと括りにできないし、それぞれいろんな立場や経験があります。その上で、「その人の話」を一つずつ紡いで作品にしていく事で、その人自身が自分の経験を大切に思ったり、周囲の人達が何か少しでも発見する事があればいいなと思っています。

この度、神戸IDAHOに右の漫画を選んでもらい、こちらに掲載いただけると聞いて大変嬉しく思っています。これは2018年夏頃に、自分が当たり前に感じている事を描いた漫画です。ゲイとして生きてると「同性同士では子どもはできないよね」という声をよく耳にします。もちろんそれは事実かもしれませんが、他にもたくさん大事なことがあるのではないのでしょうか。人は生きてると、他人を助けたり、他人に助けられたり、迷惑をかけたり、かけられたり…いろんな事を経験しています。この一見当たり前のように思える経験を大切に思ってもらえたらいいなという想いで描きました。

（ホームページ <http://moscowmule-manga.com/>）



## 『私の大切なまちに寄せて』 吉川 寛

思い入れの強い西宮市という場所について、こうして声を届けられることを、大変ありがたく嬉しく思っています。私は関西学院大学への進学をきっかけに西宮市で暮らし始めて、そこから10年以上このまちで暮らしてきました。その間、教育委員会では多様な性に関する冊子が作られ、母校では関学レインボーウィークが始まり、市内の公立中学校で制服選択制が導入され、そして来年4月からは「パートナーシップ宣誓証明制度」(仮称)がスタートします。多くの人の小さく粘り強い歩みが、着実にこのまちを多様な市民にやさしいまちに変えて来たのだと思うと、ひとりひとりの人の思いや力は決して小さくはないのだと、その偉大さを感じずにはられません。いったいどれくらいの人が心を砕き知恵を絞ってくださったのかと思うと、感謝の気持ちでいっぱいです。

心身の性別が異なる私は、20歳になるまで、自分らしいと感じる本来の性を抑えて『ふつうの女性』として生きて来ました。その頃まで、「自分らしく生きていい」「人と違っていても、好きなひとを好きでいていいし、好きなものを好きでいていい」「自分の気持ちを大切にしても、ひとりぼっちにならずに生きていける」ということを知らなかったからです。誰にもそんなことを言われなかったし、人と違う自分でも、自分らしい自分でも、幸せになれるなんて思いもしなかったからです。

今振り返ると、思います。スカートがどうしても嫌だと感じていた幼稚園や小学生の頃の私に、好きな服を着たらいいよとズボンを渡してあげたかった。着たくない女子制服に袖を通しながら、ジャージで学校に行けたらなと思っていた中学生の私に、ジャージでもパンツスタイルの制服でも、落ち着いて身につけられる服と、安心して学び育つ中学生を送らせてあげたかった。友人から恋バナを振られたらなんてごまかそうか、あの好きな女友達からイケメン俳優の話が聞かされたらちゃんと笑えるだろうか、明日はホモネタを聞きたくないなど、頭を悩ませていた高校生の私に、自分をごまかすって辛いねと声をかけ、多様な性・多様な生き方が溢れるカラフルな世界があると見せてあげたかった。

学生時代の私には、そんなことをしてあげられられなかったけれど、大人になった私は少しずつ自分らしく生きられるようになりました。そして、未来を生きる後輩たる宮っ子たちには、自分のような思いをしてほしくありません。私はあの時そばにいて欲しかった大人のように「あなたはあなたの気持ちを大事にしていいんだ」と伝えたいし、言葉だけではなく実際に自分らしく生きられる環境・風土文化づくりに貢献していきたいです。望むことはたくさんあります。市内の全ての学校に望む性で通えて、全生徒が制服を選択できる、通名で通学や仕事ができる、学校や役所・病院といった公的な施設での不要な男女分けがなくなる、書類の不要な性別欄がなくなる、市内のトイレが誰でも使える形になる、性によって就職や仕事が制限されない、性差別を許さない制度や風土がある……などなど。できることから着実に実現させてきた西宮市だから、きっとこれからも、もっと多様な人に開かれた市になっていけると信じています。

顔立ちや体つき、得意なこと、苦手なもの……ひとりひとり違う私たちは、性もそれぞれの性があります。それはバカにしたり茶化していいものではないし、だからといって特別扱いするものでもない。私の性もあなたの性も、違っていても互いを大切だと言い合える、そんなまちに私は住みたいと思っています。一步ずつ、一步ずつ、西宮市がそんな思いを実現させていく歩みを、これからも共にできますように。私は、今までもきっとこれからも、西宮が好きです。

## 編集後記

ついに来年4月から西宮市で「パートナーシップ宣誓証明制度」(仮称)が始まります！この原稿を書いていた時はまだ決定しておらず、今震える手で編集後記を書き直しています。

今年の2月に西宮市男女共同参画推進委員会で行われたパートナーシップ制度に関する会議の議事録の中に、2013年に西宮市教育委員会人権教育研究委員会の方々と共に作成したパンフレット『すべての子供に温かな居場所を』についての記載がありました。当時、私と友人で何度も教育委員会へ足を運び、教職員の方々と力を合わせて制作したパンフレットです。私たちの想いが伝わらない日々もありましたが、西宮市出身の当事者からのメッセージを読んだ先生の目の色が変わり「自分が持っていた学年の子のメッセージや…」「すぐにやらなければならないことだ！」と言っていただけの事を今でも覚えています。7年もの間、役立っていた事が嬉しく、あの時の苦労が新しい制度への道へ続いていた事に深く感動しました。当時、諦めずに私たちの想いに向き合ってください、全ての教職員の方々には感謝の念に堪えません。

パートナーシップ制度は戸籍上同性のカップルだけでなく、多くの人に勇気を与えるものです。行政からのお墨付きは、カミングアウトの支えに・否定からの救いに・家族の手助けに・教育現場の後押しとなるでしょう。職員の方々に「やってよかった」と思ってもらえる為、また水面下で尽力された方々に感謝の気持ちを伝える為、今度はありがたいのメッセージを集める予定です。制度ができた後にも継続すべき事は多くあります。今後も、コソコソ仲間と種を蒔いていきたいと思えます。(神戸IDAHO代表 小林 和香)

# セクシュアルマイノリティと 医療・福祉・教育を考える全国大会 2021

～つながりから見えるこれからの実践～

2021年1月8(金)～17(日)

**全ての分科会をオンラインで行います**

社会的資源がすべての人に使いやすいものになるにはどうすればいいかを考える大会です。  
実行委員、ボランティアも募集中です！

詳しくはHPをチェックして下さい→



<https://queertaikai2020.wixsite.com/2021>